令和６年度　研究推進計画

廿日市市立宮内小学校

Ⅰ　研究主題

自ら考え学び高め合う姿を目指して

～適切な目標設定と振り返りの連続を通して～

Ⅱ　主題設定の理由

これからの時代は．社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」や．先行きが不透明な「予測困難な時代」と言われている。このような．急激に変化する時代を生き抜くために．児童は自分のよさや可能性を認識するとともに．自分とはちがう価値観をもった他者を尊重し．多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え．豊かな人生を切り拓く力が必要とされている。また．個人だけでなく社会の幸福も実現させるため．自尊感情や自己効力感だけではなく．人とのつながりや思いやりなど協調的な幸福感を育むウエルビーイングの実現を目指すことも求められている。

本校では昨年度．研究主題を「自ら考え学び高め合う姿を目指して」とし．「目指す児童の姿を明確にした単元構成をもとに．児童がポジティブ行動支援を通して協働的に学び合いながら．自分に合った学び方を選択し個別最適な学びを行えば．自ら考え学び高め合う児童を育成することができるであろう」という仮説を設定し，研究に取り組んだ。

昨年度の取組の成果として，自由進度学習だけではなく，児童に学びの一部を委ねることが児童の学ぶ喜びを高めることは．児童アンケートによって明らかとなった。また．個に視点を当て，学びに向かいにくい児童のアセスメントを丁寧にとりながら声かけ以外の手立てをとることと，自分でどんどん前向きに学びを進める児童に具体的手立てを準備することで多様な児童の前向きな学びを支援することができることが分かった。また，特別支援教育の考え方を取り入れた教室環境の設定を行うことで，どの児童も見通しを持って学びを進めることができることも明らかになった。

一方で．標準学力調査では各学年の国語・算数において全国平均に達したのは半数であり．引き続き学力の定着に課題が見られる。その中でも目標のレベル３に到達していな児童は３３％であり，学力に大きな課題がある児童数も改善されていない。この原因としては，特に学びに向かいにくい児童が学びに向かう環境が十分に準備されていなかった点が挙げられる。

- 目指す児童の姿の具体が指導者間で十分共有されないことで，児童との共有ができていなかった。そのため，具体的な目標を持ち，学びを進める意識が持ちにくかった。
- 学びの一部を児童に委ねる目的と実践の個人差が大きすぎ，ベクトルが揃いにくい状況があった。

・学びに向かいにくい児童の背景が多様で，様々な児童に同じように自己決定を促す学びを提供したため，それが怠学につながる場面がしばしば見られた。

これらの点から，本校児童に学びに向かう意欲をつけて行くことそのものが喫緊の課題であると考える。

そこで．今年度は．研究主題を「自ら考え学び高め合う姿をめざして」を継続し．副題を「適切な目標設定と振り返りの連続を通して」とした。取組の中心としては．各単元を通して育てたい資質・能力を明確にした上で．主体的に学ぶよう単元構成計画を児童と共有すること。個々の学習進度や理解度に応じて．児童自身が学習内容や学習方法を選択決定する個別最適な学びを進めることができる支援を行うこと。本校が目指す学びに向かう意欲を「向上心」「協調性」「忍耐力」の３つの視点とし，その振り返りを繰り返すこと。その際，指導者は．個の学びを丁寧に見取り，その学びの姿を価値づけていくポジティブ行動支援を行っていくこと。このような取組を繰り返すことで児童の学びに向かう意欲を伸ばし．自ら考え学び高め合う児童の姿につながると考える。そして．本研究を通して．本校の教育目標である「自ら考え学び合い心豊かにたくましく生きる児童の育成」の実現を目指したい。

Ⅲ　基本的な考え方

１　自ら学び高め合う児童とは

わかった・できた・またやりたい．楽しさを感じる姿

	具体的な児童の姿
自ら学ぶ	・達成すべき目標を適切に設定し目標達成まで学びを進めることができる ・自分で考え自分のペースで学習を行い，目標を達成することができる ・自分の学びをふり返り．新しい課題が生まれたり生活に生かしたりすることができた　等

２　個別最適な学びとは

学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めるために．新たに学校における基盤的なツールとなる ICT も最大限活用しながら．多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する学び

参考：文部科学省　R３「学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料」

３　ポジディブ行動支援（PBS）とは

児童生徒の望ましくない行動を「罰則や叱責」で減らすのではなく．意図的に望ましい行動を「賞賛や承認」で増やし．結果的に望ましくない行動を減らす支援

参考：日本ポジティブ行動支援ネットワーク HP

Ⅳ　つけた力と学びを通して本校が目指す児童の姿

向上心・・自分の能力・性質などをより優れたものにしようとする心

協調性・・自分と異なる立場、違う意見や考え方を持つ人たちと協力しながら、同じ目標の達成に向けて行動できる力

忍耐力・・目標達成に向けて何をしないといけないのかをしっかりと理解し，壁があっても克服し行動できる力

つけたい力	つけたい力を身につけた具体的な児童の姿
向上心	・分からないところや苦手を正しく見つける姿 ・自分に付けたい力を把握して，学習内容を計画する姿 ・自分に合うやり方を考え，計画を修正しながら取り組もうとする姿
協調性	・友達の考えやよさを自分の中に取り入れようとする姿 ・相手がどう考えているかを理解し，受けとめる姿 ・相手の考えや思いを大切にした関わり合いをする姿
忍耐力	・自分の気持ちをコントロールして目標に向かう姿 ・できないではなく，自分に足りないものを考えて取り組む姿 ・できない時，できるようになる方法を考え，目標にたどり着く姿

Ⅴ　研究の仮説

教科の目標とつけたい力の視点を児童と共有し，児童が．自分に合った学び方を選択し個別最適な学びを行えば．自ら考え学び高め合う児童を育成することができるであろう。

Ⅵ　単元をつくる考え方

（１）　教材研究

・単元が目指す目標，指導事項の確認

→単元構想シートの作成

・学習計画（計画表）の作成

学びを委ねる部分の効果的な設定

・提示する教材の決定

８割の児童が理解できる教材

ＩＣＴの効果的な活用

学びに向かいにくい児童への手立て

→どうして難しいのか

→特別支援学級の教材の活用

自分で学び進める児童への手立て

（２） 授業の展開

・第１時（０時）

目標，計画，ふり返りシートの児童との共有

・個の学びの見取り，良い学びや目標とする学びの価値づけ

→児童の思考の状況を判断し．適切なタイミングで支援を行う

・ふりかえりの質を高める３つの視点での評価と価値づけと常に意識する

・児童のつまずきを分析し．適切な学習支援を行う

→計画の修正ありき

（３） 評価

・指導者もふり返りを行い次の指導に生かす

ふり返り項目

①本質的な問いに対して

単元構想シートの『本質的な問い』に対しての自分の答え

②３つの観点に対して

【向上心】

低学年	・じぶんのわからないところをみつけたか。 ・がくしゅうけいかくを，せんせいといっしょにつくることができたか。 ・じぶんにあうやりかたで，とりくめたか。
中学年	・自分のわからないところや苦手なところを見つけたか。 ・自分に付けたい力を見つけ，学習内容を計画したか。 ・自分に合うやり方を考え，計画を見ながら取り組んだか。
高学年	・自分のわからないところや苦手を正しく見つけたか。 ・自分に付けたい力を把握して，学習内容を計画したか。 ・自分に合うやり方を考え，計画を修正しながら取り組んだか。

【協調性】

低学年	・ともだちのかんがえのよいところをみつけたか。 ・あいてのかんがえをしっかりきいたか。 ・あいてをきずつけないようないいかたができたか。
中学年	・友達の考えや良いところに気付き，まねしようとしたか。 ・相手がどう考えているかを理解しながら聞いたか。 ・相手の考えや思いを傷つけないような言い方ができたか。
高学年	・友達の考えやよさを自分の中に取り入れたか。 ・相手がどう考えているかを理解し，受けとめたか。 ・相手の考えや思いを大切にした関わり合いができたか。

【忍耐力】

低学年	・じぶんのすききらいにかんけいなくとりくめたか。 ・じぶんのにがてなことにもあきらめずにちょうせんしたか。 ・できないとき，どうしたらよいかそうだんできたか。
中学年	・自分の気持ちをコントロールすることができたか。 ・できないではなく，あきらめずに挑戦したか。 ・できない時，できるようになる方法を考えることができたか。
高学年	・自分の気持ちをコントロールして目標に向かうことができたか。 ・できないではなく，自分に足りないものを考えて取り組んだか。 ・できない時，できるようになる方法を考え，目標にたどりついたか。

③自身の振り返りに対して

単元終了時に，自分の振り返りを見直し，正しく振り返る力が高まったかを確認する

Ⅶ　検証の指標

検証の視点	方法	達成目標
向上心	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
協調性	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
忍耐力	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
テスト	標準学力調査	・全国平均より国語・算数科共に上回る ・レベル３以上の児童の割合を ８０%以上にする

Ⅶ　研究の計画

月	内　容
４／３	研究内容の共通理解
４／１８	４／２５　授業の趣旨説明
４／２５	授業研（5 年 3 組）
５／１６	校内研　授業づくりと評価　学年またはブロックで
５／２３	校内研　授業づくりと評価　学年またはブロックで
５／３０	校内研　授業づくりと評価　学年またはブロックで
６／２７	中学年 B 授業研
８／１，２， ６，７，２３	理論研修　公開研，研究授業単元構想シートの作成　☆ 学テ分析
７／２５	1 学期の振り返り
９／１９	高学年 B 授業研
１０／１０	校内研　授業づくりと評価　学年またはブロックで
１０／１７	校内研　授業づくりと評価　学年またはブロックで
１０／２４	野坂校区公開研究会指導案検討
１０／３１	野坂校区公開研究会指導案検討
２／４	研究の振り返り・次年度に向けて
１１／１４	低学年 B 授業研
１２／２６	野坂中校区公開研究会指導案完成
１／２４	野坂中校区公開研究会　全 7 学級公開（各学年，特支各１）☆
２／４	研究の振り返り・次年度に向けて
２／２０	標準学力調査分析